

令和6年度 第5回 藤沢市立羽鳥中学校 学校運営協議会会議録

開催日時 2025（令和7）年2月26日（水）13時30分開会

場所 藤沢市立羽鳥中学校 図書室

No	氏名		出欠
1	青木 茂道	青少年育成協力会会長	○
2	小河 愛由美	三者連携・民生委員	○
3	齋藤 美江子	元学校評議員 元PTA会長	○
4	岩淵 富美代	元学校評議員	○
5	戸塚 渉	明治市民センター長	○
6	西塔 光好	元中学校教頭	○
7	林 久美	元学校評議員	欠
8	秋田 典子	児童委員	○
9	能勢 敏之	民生委員	○
10	若林 理恵	藤沢市社会福祉協議会明治地区担当 CSW	○
11	市村 慶子	社会福祉法人いきいき福祉会ラポール城南	○
12	三觜 恵加	前PTA会長	○
13	伊藤 由紀子	PTA会長	○
14	深津 礼子	本校校長	○
15	溝尾 昌也	本校教頭	○

1. 開会 青木会長

(深津校長)

寒暖差が気になる季節となった。学校運営協議会委員の皆様には今日が最後の方もいる。後ほどご挨拶を頂きたい。本日は3年生が卒業遠足に出かけている。

2. 議題

(1) 令和6年度学校評価の結果について

(深津校長)

事前に郵送させて頂いた。お忙しい中、お目通し頂きありがとうございます。5点満点の中間点3点として点数化した。大きく5つの柱で評価分析を行った。

次第

「1. 学校生活」のところは、生徒・保護者ともに「学校に来ることが楽しい」が高い数値が出ている。他の項目も含め、高い数値がでたことは、学校が落ち着いているからこそその結果と捉えている。良いところは伸ばしていきたい。

課題は、特色ある活動について数値が低めであった。以前は学年劇等、羽鳥中特有の行事があったためと捉えている。

「2. 授業」では、家庭学習への取組についての数値が低めであった。また、適切な学習評価についても取り組んでいきたい。

「3. 進路」では、学校からの情報提供が低めであったことは課題と捉えている。また、進路＝将来の生き方等、広く考えを持てるような指導も展開していきたいと考えている。

「4. 行事・生徒会」では、比較的どの項目も高めの数値が出ている印象である。次年度も引き続き、生徒にとって充実度の高い行事を目指していきたい。また、「生活のきまり」については、生徒指導部や生徒主体の中央議会で靴下やセーターの色等、様々な議論を深めていった。生徒たちのにとっては、決められた校則の方が楽の部分もあるのかもしれないが、推進していきたい。

「5. 生徒指導・支援」では、どの設問においても、比較的高い数値が出ている。中でも、命の大切さや人の生き方については熱心に学んでいる結果が出ている。

自由記述では、防災用ヘルメットの常備義務に関する要望があった。防災に関する認識については、昨今の状況を鑑みると、非常に大切な課題と捉えている。導入の仕方等については、PTAにも相談をしている最中である。

(青木会長) この後は、グループに分かれて協議を行います。

Aグループ（青木、小河、三觜、伊藤）

（生活）家庭に浸透していないのではないか。学校からのPRが必要。学校便り等で定期的に発信すべき。アンケートの回数を増やす。アンケートはPTAが主催しても良いのではないか。

（進路）保護者への説明がさらに情報源を多くするべき。

（生徒指導）救命講習を必須にしてほしい。心臓マッサージとAED

Bグループ（齋藤、岩淵、市村、若林）

（生活）あいさつ、学校に行くのが楽しい、など評価が高いのはすばらしい

（防災）学校で地震や火事が起きた場合はいいが、通学路等で起きた場合の指導をしてほしい。

（授業）家庭学習への考え方（塾へ行ってやっているからいいのか・・・）

Cグループ（能勢、西塔、戸塚、秋田）

（生活）目を見てのあいさつ、学校に行くのが楽しい、など評価が高いのはすばらしい

（生徒指導）いじめのところ、生徒の数値は低いが教師の数値が高いが、そのズレが気になりました。

（授業）家庭学習とはそもそも何なのか。

（2）令和7年度グランドデザインについて

（深津校長）

案を作成した。この作成にあたり、教職員へヒアリングを行った。よいところは、「素直」「まじめ」「向上心がある」「礼儀正しい」一方、「そのまま受け取る、疑問に思わない」「自己表現が苦手」「傷つきやすい」「自己推進力が弱い」「支援が必要な生徒が多い」が挙げられた。

学校教育目標は変わらない。重点目標は、「自己実現を図ろうとする態度を育てる」「自己肯定感をもち、互いを認め合いながら」、「自立した学習者」をキーワードとして取り上げた。全ての教育活動において、「子ども」が進められることが願いの中心である。そのためには、地域の方々とつながり、様々な「体験」をさせていきたい。

（青木会長）

幼保小は、幼稚園、保育園、小学校でよいか？→よい

（齋藤委員）

育てるのは「態度」ではなく、「姿勢」ではないか？→検討します

(3) 学校運営協議会のあり方と今後について

(深津校長)

添付資料をご覧頂きたい。改めて、学校運営協議会の目指すべきものを確認したい。「地域とともにある学校」を目指し、地域が「当事者」として学校運営に参画できる仕組みである。

次年度からは、地域コーディネーターを置いて、この方を中心に、協議会を進めていきたいと考えている。

昨今、学習支援のニーズが高まっている。新入生の中にも、小学校で別室登校の事例も聞いている。次年度、現在も行っているが、不登校学習支援のお手伝いも皆様にはお願いしたいと思っている。

また、地域の方と防災訓練等も行えないだろうか、とも考えている。稼業時間がベターだが難しければ土日も使ってつながっていききたい。

(小河委員)

前回にも案として出したが、学習支援体制でシフト制化して、是非協力していきたい。

(青木委員)

別室ではどのようなことをやるのか？→学習指導もあるが、人とつながる時間としてもよいと思っている。または、教室の様子をリモートでつながることもある。

(小河委員)

勉強は教えられないが、各委員の長所を掲げ、子どもたちの別室「来る」ことのきっかけとしてももらえる、という考え方もあるのではないか。

(秋田委員)

他機関への出向き（登校のようなもの）についても、それが「きっかけ」となっていくのであれば、それはそれで有意義な活動となると思う。

3. その他

- ・令和7年度 学校運営協議会委員向け研修会（後日正式通知あり）

場 所 湘南台文化センター 市民シアター 大ホール

対象者 学校運営協議会委員

※ 初任者のほか、興味関心のある方

4. 今までを振り返って（全委員より）

(青木委員)

分からない状態でスタートしたが、支えられながらやってくることができた。

(伊藤委員)

地域の声を聞くことができたことが有意義であった。陸上部の生徒と花の会としてつながることができた。

(三觜委員)

研修を通じて、この会の意義を少しずつ理解してきた。将来的には、差別も壁もない、誰でも受けられるオープンな支援をこの協議会に期待したい。

(戸塚委員)

授業参観が、直接学校を知る機会となった。この協議会は、子どものために、にくわえて、先生方のためにもつながるものにしていきたい。

(小河委員)

救命講習をどこの学校でもやっていく制度を構築したい。有事の際は中学生の力を貸してもらいたい。明治地区ではせめて統一したい。

(齋藤委員)

青少協や親鳥の会のメンバーでもあるので、羽鳥中の力にこれからもなりたい。

(市村委員)

授業参観が、学校を知る、生徒を知る機会となった。学習支援にも協力したい。

(若林委員)

授業参観が、羽鳥中を知るきっかけとなった。誰一人取り残さない、別室支援の対しても協力していきたい。

(岩淵委員)

羽鳥中学校の行事に、我が子以上に関わらせて頂いた。とても幸せな時間でした。

(能勢委員)

民生委員として携わらせて頂いた。ボランチセンターで活動しているため、依頼して頂けると力になれる。

(西塔委員)

学校からの依頼には、できるだけ協力してきた。これからも、朝のグランド開放の見守りもアイデアとしてはあるが、先生方への支援につながることにについては、精一杯やっていきたい。

(秋田委員)

羽鳥中とは、介助員としてのお手伝いがはじめての出会いであった。学習支援、という具体的な話が出たのでうれしく思う。

5. 来年度以降の会議日程 (案)

第1回	2025年	5月22日(木)	13:30	～	本校	図書室
第2回	2025年	7月9日(水)	13:30	～	本校	図書室
第3回	2025年	10月15日(水)	13:30	～	本校	図書室
第4回	2025年	12月10日(水)	13:30	～	本校	図書室
第5回	2026年	2月25日(水)	13:30	～	本校	図書室

閉会